



カンベンペット歴史公園ワットブラシーイリヤーボット

■ フォトエッセイ ■

# タイの国立博物館を巡る



国道1号線



愛車ヤリス



歴史公園案内所



ワットチャーンローブ

文・写真 横山光紀  
Mitsunori Yokoyama

転勤のためタイ・バンコクに家族をとま  
ない赴任した。折角の外国暮らしなので子供達  
にはタイのことを知ってほしいと思いい休日の  
たびに連れ出したが、どこへ行っても暑い  
し、エアコンのきいた部屋でゲームをしてい  
た方が楽ということでも不評であった。バンコ  
クから近いアユタヤー県は遺跡で有名だが  
が、子供達にとっては崩れたレンガの建物が  
たくさんあるだけで面白くもなんともな  
い。海以外は連れて行ってくれるなど散々で  
あった。

赴任途中で子供達は進学のため帰国し単身  
赴任となった。子供達がない休日は何もす  
ることがなくなつたが、文句をいわれなくな  
つたことを幸いに車で名所旧跡巡りをする  
ことにした。

タイは地方でも道路がよく整備されてお  
り、バンコクを出れば渋滞もないし高速道路  
料金もいらぬ。チェンマイ方面などの北部  
を除けば道も平坦で、信号もほとんどないた  
め運転は楽だが、一時間も走れば周りの景色  
は空き地、田んぼ、畑、雑木林の連続にな  
り、変化がないのでねむくなってしまふ。

バンコクから三五〇キロほど北上したとこ  
ろのカンベンペット県に「古代都市スコータ  
イと周辺の古代都市群」として世界遺産に登  
録された一三〜一四世紀ごろの遺跡群がある  
ので行ってみた。森のなかの歴史公園はきれ  
いに整備されているが、とにかく暑いので車  
で遺跡の前に乗り付けて見学し、隣の遺跡に  
車での移動を繰り返す。最初の二〜三カ所



チャンタブリー・バンittナヴィ（海事）博物館



ナコンパトム・プラバトムチェディ国立博物館



ペッチャブリー・プラナコンキリ国立博物館



チェンラーイ・チェンセン国立博物館



チェンラーイ・チェンセン国立博物館



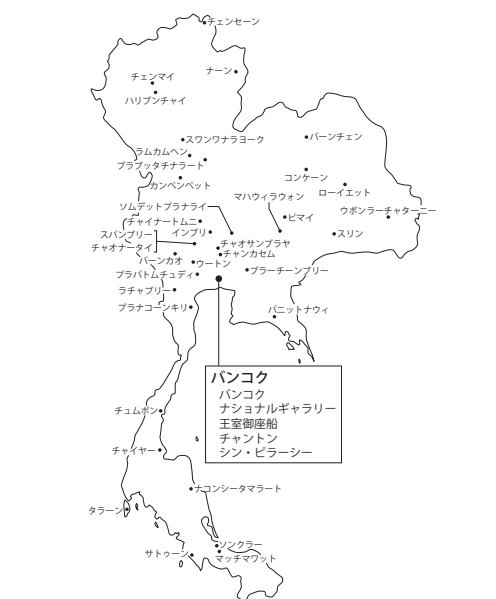
ラーチャブリー国立博物館



カンペンペット国立博物館



カンペンペット国立博物館の受付嬢



国立博物館の所在地



ウートン国立博物館タイ人料金 30 パーツ



バンコク国立博物館外国人料金 200 パーツ

は当時ジャングルであっただろうこの地に壮大な寺院群を作ったスコータイ王朝の繁栄を思い、遺跡の一部と化した石像にカメラを向けているものやっぱり飽きてくる。売店でタイ名物の砂糖の入った甘い緑茶のボトルを買い、エアコンをつけた車のなかで休憩している始末である。歴史公園から市内に戻る途中でカンペンペット国立博物館をみつけた。館内に入ると受付に女性がどうかちよつと迷う人が座っていて、私にタイ語で「こんにちは。何人ですか」と声をかけてきた。私はタイ語で「ひとりです」と答え、彼女が困ったような表情になった。タイの国立博物館や国立公園などはタイ人料金と外国人料金が別に定められており、一〇倍ぐらい料金差があるところもある。料金の表示はタイ人料金の場合には数字もタイ文字で書かれているので、読めない人はいくらだかわからない。そして「あなたはタイ人ですか」と聞いてくる。見てわからないのかなと思いつつ「いいえ日本人です」と答え、彼女は手元にある二種類の入場券のつづりから外国人料金のつづりを持って一枚切り取った。バンコクやチェンマイなど外国人がたくさん来るところの係員は何事もなく英語で外国人料金を請求してくるが、あまり外国人が来ないであろう地方の博物館に行くと対応が面白い。「すみません。決まりなので外国人料金をいただきます」という低姿勢な人。「タイ語ができるならタイ人料金でいいよ」といういい加減な人。何の躊躇もなくタイ人料金を



コーンケン国立博物館



バンコク・チャントン（王室象）博物館



アユタヤー・チャンカセム国立博物館



カンチャナブリ・パーンカオ国立博物館



ナーン国立博物館



バンコク国立博物館



ウボンラーチャターニー国立博物館



ナコンラチャンマー・マハウイラウオン国立博物館



ソングラー国立博物館とブルメリア



シンプリー・インプリー国立博物館

請求する自然体の人。外国人料金を徴収してタイ人料金の入場券を渡す人（なぜ？）などさまざまであった。

カンペンペット国立博物館では、周辺の遺跡で発掘された仏像や石像、彫刻、宝飾品などがゆったりと配置され、エアコンがきいた涼しい館内をひとりきりでゆっくりと見学することが出来た。帰りがけに販売コーナーを覗いてみると、「National Museums of Thailand」という国立博物館を所管する文化省芸術局発行の冊子が売られていたので土産代わりに購入した。この冊子によると管轄の国立博物館は、表題のとおり全国に四四カ所あるとのことだが、後日調べてみると四一館が公開されていることがわかった。よし、全博物館を車で制覇してみるかとこの冊子を見て決めた。その後二年間かけて、飛行機で行ってしまった南部の四館を除く三七館を車で訪れた。一番遠かったのは、北部チェンライ県のチェンセーン国立博物館でバンコクから二日間かけて九三〇キロを走行した。こうなると博物館でタイの歴史に関して造詣を深めるといふより入場券の収集が目的となってしまうが、土産物を買うよりかさばらなくてよい。

東部のチャンタブリー県にあるパニットナウイ（海事）博物館では、窓口の女性がニコニコしながら「今日は無料公開の日ですから入場料は要りません」というではないか。こちらは、バンコクから四時間もか



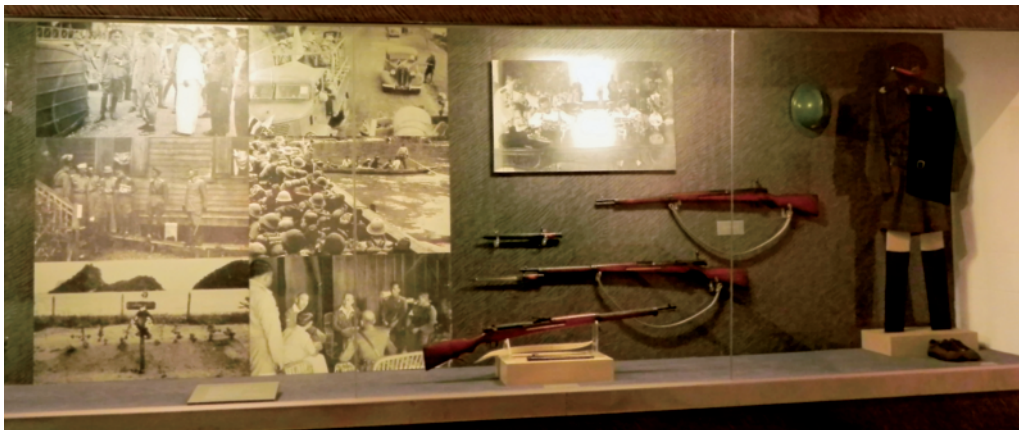
スラートタニー・チャイヤー国立博物館



ウドンターニー・バーンチェン国立博物館



チュムポン国立博物館



チュムポン国立博物館（日本軍上陸の様子）



チュムポン国立博物館（タイ青年義勇兵の像）

けて運転してきているのだから「入場券を下さい。料金を払いますから」というと「だから今日は無料なんです」と明らかにムツとした表情になり、それでもねばっていると館長が出てきて入場券をくれた。

東北部のスリン県にあるスリン国立博物館では、窓口には外国人一〇〇バーツと書いてあるのに係りの女性に「新築開館直後で入場券はまだないから無料でいいです」といわれ、七時間近く運転してきた疲れがどっと出た。

「タイの国立博物館を巡る」という表題にもかかわらず博物館の展示内容に全く触れなかったことをお詫びしなければならぬが、南部チュムポン県にあるチュムポン国立博物館を訪れたところ、一九四一年一月八日に英領ビルマへ向うためタイ湾から同地に上陸し、タイ国軍・警察らと交戦した日本軍についての展示室があり、遠く離れたタイの博物館で目にとびこんできた日本に驚いた。タイで日本軍の戦跡というとカーンチャナブリー県の泰緬鉄道が有名だが、一月八日は太平洋戦争が始まった日であり、戦時中同盟国であった両国が小規模であったとはいえず、この地で戦闘を交えたことを伝える貴重な展示である。

ちょうど博物館を訪れていた子供連れのタイ家族と一緒にこれらの展示を見ながら、私もひとりではなく子供達を連れてきたいと思った。（博物館のことをタイ語でピピットパンといいます）

<http://www.nationalmuseums.fiheartst.go.th>

よこやま みつりの

日本貿易振興機構 総務部